

報告事例番号 1

次代を支える担い手農業者の育成

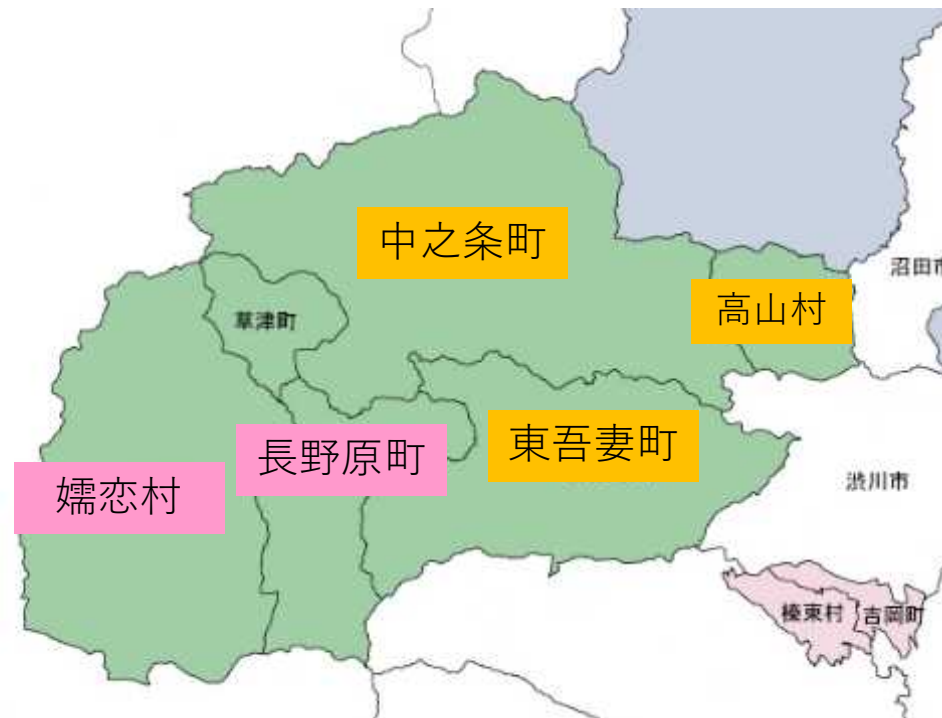


吾妻農業事務所普及指導課

I 課題設定の背景及び理由

吾妻郡東部地域（中之条町、高山村、東吾妻町）は、野菜、コンニャク、畜産、花き等栽培品目が様々。後継者も少なく、地域全体の活性化が課題。

そこで、産地を支える担い手の確保・育成することで、地域の活性化を目指したい。



Ⅱ 目標年次の姿

	H29	H30	R1	R2
	現状	目標	目標	目標
新規就農者数(人)(単)	18	20	20	20
認定新規就農者数(人)(累)	7	9	11	13
若手女性農業者組織数(累)	0	0	0	1
青年組織新規加入者数 (人)(累)	3	5	9	13
研修受入者数(中之条)(人)(累)	4	5	6	7

Ⅲ 主な支援事項と解決手法

1 総合的な就農受け入れ体制の強化

[支援対象：JA・町村担い手担当者・研修受け入れ農家]

2 新規就農者の定着と安定化

[支援対象：新規就農者・就農希望者・ステップアップ支援農家]

3 若い女性農業者の育成

[支援対象：若手女性農業者・あがつま農村女性会議]

4 東部地域農業青年組織の活性化

[支援対象：GREEN PAL・AYATORI]

5 中之条町農業担い手受入協議会の活動支援

[支援対象：中之条町農業担い手受入協議会]

中之条町農業担い手受入協議会の活動について

1 H27～29の取組経過



中之条町六合地区の位置



* 標高約600m~1,200mに
かけ農地がある。

(1) 「六合の花」の紹介

- ◆ 生産部会発足 平成4年
(現：JAあがつま花き生産部会六合支部)
- ◆ 地元の山にある山野草を含めて
約**150種類**の切り花生産
- ◆ 栽培者は高齢者を中心に**66名**
- ◆ 年間販売額は約**1億2千万円** (H29)

【主な品目】



オランダセダム



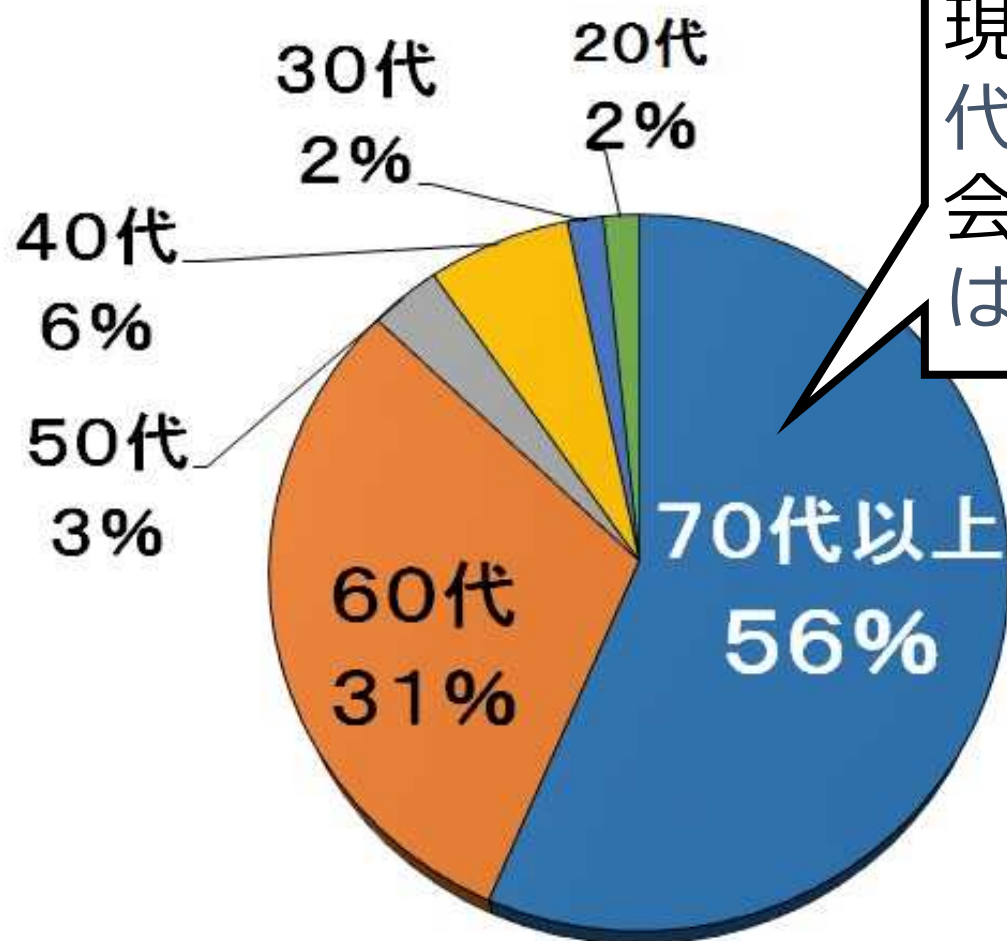
アルケミラ



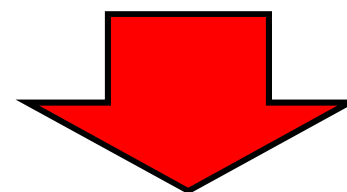
クリスマスローズ

(2) 「六合の花」の担い手

J Aあがつま花き生産部会六合支部年齢構成 (H27)



現会員66名のうち、70歳代以上が半数を超え、部会発足時の中心メンバーは80歳代以上に・・・



5年後には栽培を続けられない生産者の増加が懸念・・・

(3) H27-29年の活動経過

H 2 7 受け入れ体制作りの検討会
就農フェアへの出展(東京)
就農・定住ガイドブックの作成
営農モデルの作成
体験研修会の開催



中之条町農業担い手受入協議会発足

H 2 8 農家研修開始(4名うち1組夫婦)
農地の確保、施設導入の検討

H 2 9 研修中の夫婦が就農
(その後、順次就農)
施設整備、用水確保の検討
中之条町農業担い手受入協議会の
発展的再編(花→花・野菜・果樹)



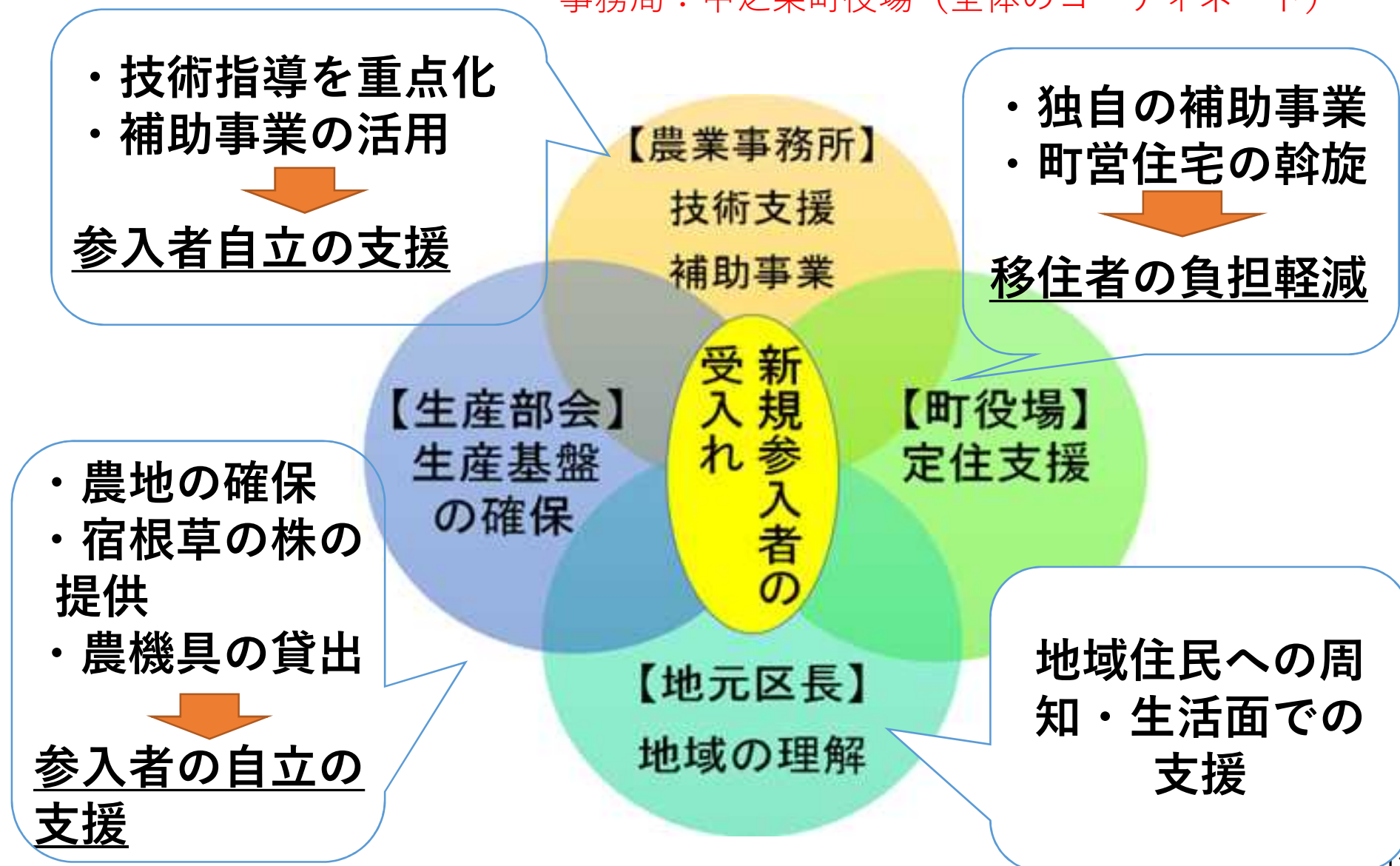
中之条町農業担い手受入協議会の活動について

2 現在の活動について H30～



(1) 現在の「中之条町農業担い手受入協議会」の活動体制

事務局：中之条町役場（全体のコーディネート）



(2) 新規就農者確保の取組

- ・ 就農フェア等への出展
H30年 5回、相談者22人
R1年 5回、相談者22人
- ・ 町内住民へもPR
- ・ 体験研修会の開催
H30年、1回4人
R1年、5回7人

集団体験→個別体験

(～H30) (R1～)



(3) 就農に向けた支援

- ・ 就農計画策定支援
H30年 6回、R1年 5回

- ・ 就農に向けた研修
H30年 9回、R1年 8回



- ・ 農業次世代人材投資事業の活用
就農状況確認と併せて、技術指導や経営指導を行う。また、年齢要件で国の支援が受けられない就農者へは、町単の事業も新設。
- ・ 農村整備課と連携して、農業用水確保の検討

(4) 定着のための支援

- 定期的な巡回指導、資料提供
普及指導課とJAが連携して対応
H30年24回、R1年43回
- 巡回指導会では、研修先の生産者が同行することで、就農者に合わせた的確なアドバイスが出来る。
H30年3回、R1年2回
- 販売促進のための、
産地見学会の開催
H30年8月24～25日、
R1年7月26～27日



「中之条町農業担い手受入協議会」 の活動成果

No	就農場所	年齢	研修開始	就農日	就農品目	農業次世代人材投資事業	
						準備型	経営開始型
1	六合 ①	45	H28.4	H29.4.1	花き	○	○
2	六合 ②	46	H28.4	H29.4.1	花き		町の支援
3	六合 ③	43	H28.4	H29.10.1	花き	○	○
4	六合 ④	42	H28.4	H30.4.1	花き	○	○
5	六合 ⑤	52	H30.7	H31.4	花き		
6	六合 ⑥	36	H31.2	R2.4	花き	○	○
7	六合 ⑦	22	R2.4		花き	○	
8	六合 ⑧	22	R2.4		花き	○	
9	六合 ⑨	31	R2.10予定		花き	○予定	
10	中之条 ①	37	H28.4	H29.4.1	花き	○	○
11	中之条 ②	35	R1.10		果樹	○	
12	中之条 ③	25		H31.4	野菜		○

花き・果樹・野菜で 12名が就農や研修

IV 地域への波及効果

(1) あがつまスプレーマム産地協議会の設立 (H30.3月)

- ・ スプレーマムの産地であるが、後継者不足が深刻
- ・ 地域を挙げて、受け入れる体制を整備
現在1名が研修中

(2) 高山村で移住者を増やす検討を開始

- ・ 人口減少対策の一環
- ・ 中之条の事例を参考に、検討中

V 活動成果

	H29	H30		R1		R2
	現状	目標	実績	目標	実績	目標
新規就農者数(人)(単)	18	20	18	20	14	20
認定新規就農者数(人)(累)	7	9	10	11	11	13
若手女性農業者組織数(累)	0	0	0	0	0	1
青年組織新規加入者数(人)(累)	3	5	7	9	11	13
研修受入者数(中之条)(人)(累)	4	5	5	6	6	7

VI 残された課題と今後の対応

(1) 新規就農者の定着

- ・ 就農計画に沿った営農支援
- ・ 早期の技術習得
- ・ 経営発展に応じた定期的な技術指導

(2) 地域全体への波及

- ・ 吾妻東部地域の受け入れ体制整備
- ・ 県内他地域への情報提供

中之条・六合地区

花の産地として知られる中之条町六合地区で新規就農者が増えている。あまり

増 移住の花農家

今年家族5人連れ 農が就農し 町後押

広くない土地で初期投資を抑えて農業を始められるとあって注目され、今年には家族5人で移住した一家が就農した。町は就農者給付金制度を設けるなど就農を後押ししている。

高齢化による農産物深刻化する中、町は新規就農者の受け入れ体制整備に着手。生業者と手を組み、2016年に就農研修を始めた。これまでに5世帯6人が六合の花の農家となった。内訳は世代4人、30、50代が各1人。移住前は都内で働いていた人が多い。現在は東京の大学で学んだ20代の2人が就農を自指し、先輩農家で研修を受けている。

同地区の主力品種はオランダセダムやクリスマスローズなど。同じ株から毎年育つ苗根葉が中心。先輩農家から株を無償で譲り受けることができ、ため、就農しやすい。六合の花は国内最大となる都内の生花市場で評価が高く、年間販売額は約1億3千万円による。



花農家になった岩崎さん一家

4月に就農した岩崎一家さん38歳は家族で埼玉県飯能市から移住。もともとフリースタイルスキーツー選手で、競技経験を生かしたバックカントリーツアーガイドなどを手掛けていたが、六合の花の将来性を感じ、約1年の就農研修を受けて花農家となった。

自宅周辺の自分の畑と農家から借りた農地計10町でオランダセダムやフロックスなどを栽培する。最盛期には午前4時半ごろから、1日日本近くを切っただけ、妻の農代さん38、10歳、7歳、5歳の男児3人との5人暮らし。三子ともはのびのびと育っている。先輩農家に問いかけるように栽培技術を聞きたい」と意気込む。

六合の花を栽培する農家は70人で、70代以上が大半だ。六合の花生産部会の黒岩正善会長の74は「今は市場から産地と認められているが、高齢化が進んでいる。新しい人を入れなければ産地を維持できない」と話す。新規就農した6人を「産地を支える戦力」と位置付けている。

上毛新聞 令和2年9月7日

御清聴ありがとうございました。